



マイナス金利政策の影響で厳しい市場環境が続く中、地銀等の出資を受けて運用会社オールニッポン・アセットマネジメント(ANAM)が誕生した。「地域金融機関と共に歩み成長していく」と掲げる同社。地域金融へどのように貢献していくのか、設立を牽引した永野竜樹氏に聞いた。

特別インタビュー

地銀向け運用会社ANAMに聞く 地域金融機関の自己勘定運用 に対するサポート業務

永野 竜樹

オールニッポン・アセットマネジメント
常務取締役 管理本部長兼ファンド管理部長

——過去に例を見ない形の運用会社ですが、どういった経緯で設立に至ったのでしょうか。
永野 もともと私は民間の運用会社で地方銀行の資金運用を担当していたのですが、もっと地銀の有価証券運用業務の高度化・効率化に資する運用会社があってもよいのではないかと考えていました。そうした志を同じくする人間が集まり、賛同していただいた金融機関の出資を受けてできたのが当社です。

現在の出資者は、秋田銀行、山形銀行、十六銀行、山陰合同銀行、広島銀行、山口フィナンシャルグループ、西日本シティ銀行の7地銀と、日本政策投資銀行、そして東海東京フィナンシャル・ホールディングス(FH)。出資額はいずれの銀行も1億円です。また、東海東京FHは4・5億円です。

それぞれ異なるつながりがあるて集まったものだから、出資行はシステムが共通しているわけでもないですし、資本関係、営業エリアもバラバラです。東海東京F

地銀とアイデアを共有し 最先端の運用技術を 駆使しながら ファンドを開発・運用

Hの声かけで参画していただいた銀行もあれば、社長の竹内の人脈で加わっていただいたところもありますし、私が懇意にしていた銀行もあります。

当社設立のプロジェクトチームを立ち上げたのは14年末頃です。出資を募るため全国を回っている」と話をし、認可を受けたのが今年3月。実際に運用を開始したのは5月ですね。

——マイナス金利政策導入後間もなくの設立となりましたが、プロジェクトチーム発足の時の想定とはかなり異なる環境でスタートを切ることになったではありませんか。

永野 確かにマイナス金利政策で運用環境は大きく変わりましたが、貸付による収益が厳しくなり、有価証券運用のウエイトが高くなってきているという状況は、それ以前から共通していました。マイナス金利の前からほとんどゼロ金利でしたから、国債での運用に依存できない局面へ入っていることに変わりはありません。地銀としても、余裕があるうち

投資行動を常に情報公開し 日々出資行と意見交換

に対応策を練っておきたいという思いがあったのでしよう。おかげさまで多数の金融機関からご賛同いただきました。

むしろ、このタイミング以外だと設立は難しかったと思います。マイナス金利政策の導入前に構想を始め、導入後に船出となったのは、結果的に良かったと感じています。

運用の「高度化」のため リスク管理を徹底サポート

——従来の運用会社とは、地銀との関係性は違うのでしょうか。

永野 運用会社をグループ内に抱えている地銀もありますが、それらはいずれもリテール向けの投資信託を取り扱っている会社です。私たちは地銀の自己勘定の運用をお手伝いする立場ですから、その点で異なります。営業エリアが重

なっている銀行に出資していただいています。自己勘定の運用なので、利害がぶつかるといった問題も起こりません。

また、こういう市場環境ですから、私たちを通して運用に関する情報交換ができる点にも、魅力を感じていただけたようです。各出資行のニーズを汲み上げて様々な商品を作っていますが、ポートフォリオ等の状況によっては、結果的に各行とも似た構成の商品を選ぶこともあります。

——地銀の運用力への貢献とは、具体的にどういうことでしょうか。御社のウェブサイトには「多様化」「高度化」といった言葉がありますか。

永野 多様化というのは、投資対象を多様化するということです。例えば、当然ながら各行とも外国の有価証券運用を行っています。が、今まではリスクをとるのは難

しいと思っていた部分についても協議し、投資先を広げるようにしています。私たちはこれを「有効フロントティアの拡大」と呼んでいます。

高度化については、投資先が増える、一方でリスク管理をきちんと言わないといけません。私たちの強みの一つは、運用をサポートすると同時に、このリスク管理も徹底的にサポートする点です。

出資行には、運用している商品のポートフォリオの解析結果を専用端末で通知しているのですが、どの構成要素によって収益が出たか、各構成要素と全体のボラティリティがどれくらいあるか、このポートフォリオを過去10年間のい

ろんなイベントに当てはめたら、最大でどの程度下落する可能性があるか——そういった情報がほぼリアルタイムで全部見られるのです。

諭えるなら、シェフの姿が見えるオープンキッチン形式のレストランですね。オープンですから、ファンドマネージャーに直接質問